

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2008年2月18日 No.31

3・1
ピキニデー

青年たちが各地で参加ひろげる

2月9、10の両日、東京都内でひらかれた日本原水協第80回全国理事会後、各地で奮闘がはじまり、3・1ピキニデーの参加が進んでいます。青年たちの取り組みを紹介します。

神奈川では、2月11日、『第五福竜丸博物館見学&元乗組員・大石又七さんの話を聞くツアー』をおこない、6人が参加しました。博物館を見学した後、大石又七さんから体験談を聞きました。大石さんは事件の真相について語り、「死んでいった仲間の思いを代弁したい、自分の怒りを聞いてもらいたいと思って話している」「道理が動かす世の中になってきているので若い人に頑張ってもらいたい」と話しました。参加者からは、「元乗組員のリアルな話が聞けてよかった」「一番驚いたのはピキニ二爆について政府とアメリカが事実を知らせないようにしていたのを聞いて怒りがわいた」など、感想が出されました。今後、各地でピキニデーに参加をひろげようとはりきっています。

高知では、世界大会に参加した青年たちで作るピースパイオニアーズが、3・1ピキニデーにむけて、運動参加のきっかけとなるような学習会「地球に生きる―核兵器と環境」を計画しています。高知県原水協事務局長の松繁悦子さんは、「今話題の環境問題から核兵器廃絶問題につなげたい。だれもが参加できる活動を広げたい」と話します。

東京では、2月1日に元ベトナム戦争帰還兵アレン・ネルソンさんの話を聞く会を265人の参加で成功させた杉並の青年たちが全額参加費をカンパで集めて4人でピキニデーに参加します。

署名41万筆を厚生労働省に提出



―昨年から6連敗を重ねている原爆症認定集団訴訟判決を受けて、完全に控訴を続けている厚生労働省は、原告をはじめとする全国の被爆者の怒り、

与野党の現行認定行政見直しの意見を受けて、18日に日本被団協、集団訴訟原告団、弁護団との第1回協議が行われました。これに先立ち、厚生労働省前で全国原告団、支援者が被害の実態にみあった原爆症認定制度を求める行動を行いました。その後、厚生労働省の中に入り、全国から寄せられた抜本改善を求める署名41万634筆を提出。田中熙巳日本被団協事務局長と山本英典全国原告団長から署名を受け取った厚労省担当者は「重く受け止めます」と話しました。

対話はすませ6・9行動 群馬・前橋原水協

前橋原水協2月の6・9行動が2月9日(土)、午後1時30分から1時間、前橋駅北口で行われました。署名を訴えると数々の対話が生まれます。東京から来た中国人の青年は、「日本人じゃないんです」と言うので、どこの国の人でもないんですよと話す、「じゃあします」と署名に協力。小学6年生の男の子は「アメリカが広島に原爆を落としたのを知ってるよ」と話しながら署名しました。「署名して悪用されない?」と聞いてきた伊勢崎の中学生は、大丈夫、中学生ならもう判断できるでしょう?と言うと「戦争、絶対イヤだ!」と署名しました。こうしたたくさんの方々の対話をすませながら「すみやか」署名が116筆集まりました。前橋原水協では、「最低でも10人以上で行動したい」と加盟団体に積極的な参加をよびかけています。

3・1パンフを活用し草の根からの学習すすめ代表派遣を広げよう